

# 牛久：学校周辺に見る自然

第14号 ひたち野うしく小学校

2018年5月25日発行

## ＜ 晩春のみずべ公園 ～②ハコネウツギに集まる虫たち ＞



ひたち野うしく小3年生と歩いたみずべ公園、今回はハコネウツギにきた虫たちを紹介（しょうかい）します。

花は、白から赤紫（あかむらさき）までいろいろですね。じつは咲き始めは白なのですが、だんだんとピンクから赤紫へと変わっていくのです。おもしろいですね。ラッパのような形をしています、その奥に蜜（みつ）を出すところがあります。さて、どんな虫がいたでしょう？

白からピンク、赤紫へと花の色が変わる、ハコネウツギ。



ラッパのような形の花にもぐり、蜜（みつ）を吸うコマルハナバチ（左）。出てくると（左から右へ）、体じゅう花粉（かふん）だらけ。



小さなコマルハナバチの働きバチが、ラッパのような形の花にもぐりこみ蜜（みつ）を吸っていました。奥（おく）に蜜（みつ）を出すところがあるので、体の半分以上がもぐってしまい、出てくるときには花粉（かふん）だらけになっています。クマバチも来ていましたが、クマバチは花にもぐらず、花のつけ根あたりに外から口先を差しこんで蜜（みつ）を盗（ぬす）んでいきます。

クマバチはもぐらず、花の外側（みづみづ）から蜜（みつ）を盗（ぬす）みとる。

葉（は）には袋（ふくろ）状（じょう）の巣網（すあみ）がはってあってアリがつかまっている…、と思いよく見てみると、アリによく似たクモ、アリグモでした。おすとめすがいっしょに入っていました。めすは、よりアリ（に）似（に）ていますね。



アリグモのおすとめす（左：あごの大きい手前がおす）。右の写真はめす。アリそっくりですが、足は何本？



みださき ほ くき 枝先の葉や茎にはアブラムシがびっしり。それを食べたり交尾 中 のナミテントウ。甘い汁をもらいにアリも来ていました。



もようはいろいろでも、交尾していることから同じ種類であることが分かるナミテントウ(上2枚・中2枚)。大きな黒い星が10個あるトホシテントウ(下)。アブラムシでなく、カラスウリ類の葉を食べる。

みださき ほ くき みどりいろ 枝先のやわらかい葉や茎には、緑色のアブラムシがびっしり。甘い汁をもらいにアリも来ていましたが、目だったのはテントウムシ。交尾中のナミテントウがたくさんいましたね。もようがいろいろで、別の種類のように見えます。

かえ は 帰りぎわ、葉を食べるトホシテントウも見つけました。 【理科支援員：宮内】